

【2】街路樹の受難時代

ビックモーターという中古車販売業の店舗のまわりの街路樹が、枯らされたり伐採されたりしたというのが社会問題になり、警視庁や神奈川県警など各地の警察が動き出し、社員が逮捕されるにまで到りました。

著者は土木屋という立場で、自分の住む東京や縁のある千葉、埼玉のインフラ整備や街づくりに関心を持って見つめてきましたが、街路樹がいじめられているのを心配したり、腹を立てたりしています。

街路樹が植えられるような道路や街路は、当然のこと市街地にあるから沿道は商業系の利用がなされているのですが、店の前の街路樹が目ざわりだったり、邪魔だったりするのか、いつの間にか除去されて、そこだけ歯抜けになっているという例があまりにも多いのです。

ガソリンスタンド、自動車販売店、駐車場のあるコンビニ、大型パチンコ店や、この頃目立つのが古い建物を壊して新築を待つまでの土地利用としての時間貸駐車場などの前の道路の街路樹です。

その全てが違法というわけではなく、しかるべき手続きをとって伐ったものもあるでしょうが、ほとんどは事実行為として行われ、行政側も気にしなかったというのが実情でしょう。

それだけに、今回のビックモーターの摘発は不自然で、理由はほかにあるのではと勘繰りたくなりますが、それはさておき、街路樹をいじめることが場合によっては罪になると、世に警鐘を鳴らす意味はあったと思います。

公共事業として、合法的に街路樹が除去されているのが、近年の歩道における自転車の通行帯の設置と無電柱化工事です。

たいして広くもない歩道で自転車の通行部分をとりとうとすると街路樹が邪魔になるのです。狭い歩道で無電柱化し、電線類を地下に埋設するとなると、やはり街路樹が邪魔です。

神田駅南口の多町通り（たちょうどおり）は、江戸期以来の古い街名に由来し、明治期に東京で最初に造られたレンガ造りの下水道暗渠が、今なお使われているというので有名な街路ですが、このたび無電柱化工事が完成し、電柱が無くなりましたが、ついでにプラタナスの立派な街路樹が皆伐されてしまいました。

皮肉なことに、歩道は広くなりサッパリとして風通しが良く歩きやすく、又、空も今までより広く見え明るくなった感じがします。

緑擁護の筆者としても考えさせられる光景となりました。